



やらまいか

例会日：毎週火曜日 12：30 例会場：豊川商工会議所
 会長：大岩一仁 幹事：夏目雅康 SAA：大島嗣雄 会報委員長：太田 稔
 事務局：豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 0533-86-2535 Fax0533-86-8889
 ホームページ <http://toyokawahoi.tank.jp> Email hoirc@sala.or.jp

本年度第10回 通算1081回 平成20年9月9日(火) 晴

ゲスト JAひまわり営農指導員 鈴木忠利さん
 ビジター (なし)
 出席報告 川淵啓治委員長

会員総数	計算会員数	本日の出席者数	本日の出席率	8/26修正出席率
54名	43+7名	34名	68%	90%

司会進行 大島嗣雄 SAA

会長の挨拶及び報告 大岩一仁会長



こんにちは。9月になりまして朝夕がだいぶ涼しく過ごしやすくなりましたが、日中はまだまだ残暑が厳しくて、どうぞ皆さんお体には十二分に気をつけて頂きたいと思

います。
 自民党の総裁選が混戦しています。明日の10日に告示され、22日に投開票ということですので。そのあと衆議院が解散で年内に行なわれることが確実な情勢になってきました。いずれにしても、我々の生活に大きく関わってくるのだと思います。今度の衆議院選は、政権選択選挙となると思います。どの党が政権をとっても、私たち国民は、根本的なことを改革して、弱者や福祉に対しても隔々まで行き渡る政策を願うばかりです。

もうひとつ、また食品の偽造がありました。三笠フーズの汚染米を食用に転売していた事件です。あきれるといふか、言葉になりません。いったい日本の食の安全はどうなっているのかと非常に心配です。タイミングよく、今日の講師は、JAひまわりの鈴木さんです。柴田組合長のご推薦の講師の方ですので、食

の安全安心に対する取り組みなどのお話をし
 て頂けると期待をしています。どうぞ宜しく
 お願いします。

幹事報告 夏目雅康幹事

次回例会について

委員会報告

親睦委員会(伊藤副委員長)
 秋の行楽について

外部講師の卓話

講師の紹介 柴田 啓 副委員長

こんにちは。
 今日、JAひまわりの営農指導員の鈴木を紹介させていただきます。農協に勤めて39年になります。その間、営農指導員としてトマトや稲の指導をして参りました。この地域の農業の繁栄は、彼の腕でなっただのではないかと感じております。それでは、ご清聴よろしく申し上げます。



卓話「食の安全安心について」

JA ひまわり 鈴木忠利氏

ただ今ご紹介頂きました、JA ひまわり 営農部に 39 年勤めております、鈴木です。本日は食の安全安心について話をさせていただきます。



ニュース等で行われています大阪の三笠フーズは、米の加工販売業者では大手でございます、お酒の関係などやっています。一番問題になるのは、農林水産省のチェック体制の甘さだと思います。ニュースでは「汚染米」と行われていますが、我々では「事故米」と行っていますが、海外産のお米であるわけですから、輸入されて船から降ろすときに残留農薬の検査を通らないと市場には入らないわけです。この検査は、厚生労働省の管轄でありまして、ここで合格となると国内に流れていくわけですが、不合格になるのは、一番多いのが中国の冷凍餃子でもありましたメタミドホスです。これは有機リン系の殺虫剤です。少し前に丸明の飛騨牛の産地偽造がありました、これらも食の安全安心の対策法の中に組み込まれています。ですから、食べて良いものかどうかは、信用して頂くしかありませんが、あのような事件があると、いろんな分野に被害が拡大しています。有名な焼酎会社も被害を受けると、回復はなかなか難しいです。食の安全安心と言葉にするのは簡単ですが大変です。食卓にあがる味噌汁、豆腐、ビールとすべて農家の人が行っているものです。

夏休み前に豊川市内の小学生がひまわり農協に視察に来ました。地域の農業については小学 3 年生が勉強するわけですから。ひまわり農協で美味しいお米をつくるのは、通学路で見ているからわかります。「イチゴやトマトやミカンなど食べるものは何でも作っているのですか」と単純な質問があります。実は回答に困ります。「農協はお米を作っているのですから、おにぎりは売っているのですか」「パンやラーメンは作ってないですね」単純なんです、原産はすべて農家の人が行っているのです。地元でつくっているもので、地元の食材

をまかなえば良いのではと言われる。実はまかなえません。現在、日本の食糧自給率が 40% だから、とても無理です。日本の食糧の 6 割を海外に依存しています。そして現在の農業従事者の 65% が 65 歳以上。食料自給率を上げることは難しいと思います。JA ひまわりが販売している食材、19 年度が 124 億ぐらい、これが豊川市民に十分供給されているかどうか、大変厳しいわけですから。豊川市には 100 ヘクタール以上の耕作放棄地があるわけですが、安全安心な農産物を提供していかなければならないわけですから。2 年前にポジティブリスト制度をはじめました。野菜を作る中で、農薬散布はするわけですが、バラにやる農薬は、トマトやほうれん草には駄目なわけですから。安心して安全な野菜でない限り農協には出荷できないのです。大根 1 本でも、生産者名、住所、肥料、農薬、それぞれの散布日など、あらゆる履歴を書いたものを提出しないと出荷できないのです。農薬も何倍にして、虫の農薬なのか、病気の農薬なのかも明記したものをコンピューターに入力しないと出荷できません。もしトラブルがあった場合には、生産者の番号を入力するだけで、すべてわかるようになっています。何が原因なのかという分析もできます。JA ひまわりでは、出荷する前に残留農薬の抜き打ち検査をします。私は、耕作放棄地にんにくを無農薬で栽培して出荷しました。この袋の QR コードの部分を見て頂きますと、生産者の名前から、農薬等の履歴が出てきます。自信がなければ出荷することはできません。県下でもいち早く取り組みをしました。ここまでしないと食の安全安心は守られないと考えています。

全世界から 60% の農産物が入ってくるわけですが、全国に検査所が 24 ヶ所あります。検査所に 12t のコンテナが入ってきて、入口の野菜を少し検査して合格なら、そのコンテナ 12t は日本に入って流通するわけですから、非常に危険なことだと思います。平成 19 年に 309 件が残留農薬が原因で港でストップされました。そのコンテナを持って帰るには費用がかかるので、今回の三笠フーズのような大手が、肥料や工業用に使うということで輸入米を安く分けてもらうわけですから。残留農薬については、テレビ等でもやっていますが、1ppm とよく聞きます。1ppm は、お米が 100 万粒あるなかに 1 粒あると 1ppm になります。JA ひまわりで扱っている農薬は 500 種類ぐらいあ

りますが、そのなかで一番よく使われているのが殺虫剤です。二番目が除草剤です。農家の皆さんから、野菜と野菜の間に植えた花に殺虫剤や除草剤を撒きたいと相談がありますので、私は「テデトール」を使ってくださいと言います。実は「手で取る」です。農家の人は大変だと思いますが、食べる人のことを考えれば、これも仕方ないことなのです。

先ほどの私の出荷した無農薬のにんにくですが、残留農薬を検査したわけですが、もしましたら、使っていない農薬3種類、いずれも0.3 ppm以下ですが検出されました。その耕作地は、以前スプレー菊を生産していた耕作地でした。残留農薬は、基準値を下回っていますが、スプレー菊には使用しても良いが、にんにくには使用できない農薬だったので、にんにくは全て廃棄処分しました。履歴表は常に出荷前に確認をしています。出荷時期の長い農産物などは、毎月出してもらっています。農家の人は大変ですが、食の安全安心のためにやっています。

JA ひまわり管内の農業従事者も高齢化して、後継者不足が問題になっています。全国的なこうした問題の中で、20年後の食料自給率は19.3%に下がります。このまま行けば、食料危機が来ます。現在43歳以下の農業後継者が、11.1%なので、20年後にどうなるか。8割を外国から輸入しないとなくなります。もしもこの温暖化の影響などで、日本が輸入する農産物がなくなったらどうなるか。賞味期限、消費期限の心配ばかりでなく、やはり安全安心のその奥の奥を考えて、農家の人たちがどのような苦勞をして農作物を作っているのか。20年後に、毎日食べる、野菜、味噌汁、豆腐、パン、ラーメンもなくなっていくのだと考えていけば、20年後も安全安心な食料を自給自足できるようにしたいと望むわけです。ご清聴ありがとうございました。

ニコニコボックス(9/2分も含む)

誕生日祝い

林 博宣会員 章予夫人

金田 柁宏会員

事業所創業祝い

小田伊佐浩会員 (有)ミト小田鉄工所

度会尚志会員 豊川印刷(株)

鈴木健雄会員 (株)鈴木健雄設計室

鈴木 博会員

(有)鈴木青果

樺山修一会員

豊川染色(株)

その他

半田富男会員

親睦委員会の歓迎会有難う

廣田啓司会員

平尾CC葉月杯で優勝して

林 博宣会員

誕生日を祝って頂き

加山昌弘会員

フランス旅行に行ってきた

度会尚志会員

事業所創業を祝って頂き

大沢茂樹会員

久しぶりに出席しました

大岩一仁会員

大沢さんに久しぶりに会い

柴田 勝会員

講師の鈴木さんを宜しく

岩瀬靖宏会員

〃

金田 柁宏会員

誕生日を祝って頂き

樺山修一会員

事業所創業を祝って頂き

小田伊佐浩会員

〃

鈴木健雄会員

〃

ロータリー情報

ナイジェリア大統領がポリオ撲滅を約束

現存するポリオ発症国の一つ、アフリカ・ナイジェリアのウマル・ムサ・ヤラドゥア大統領は、ポリオ撲滅への貢献をたたえられロータリーのポリオ撲滅チャンピオン賞を受賞。その際、ナイジェリア国内でのポリオ撲滅に向けた活動を継続すると宣言しました。

この賞は、ポリオ撲滅に重要な貢献をした国家元首や保健組織のリーダーなどを表彰するものです。7月24日、首都アブジャで、ロータリー財団管理委員長のジョナサン・マジアベ氏から賞を受けたヤラドゥア氏は「国内から完全にポリオを撲滅させることについて、この賞は私に大きな責任を感じさせるものです」と発言しました。

ヤラドゥア氏は、かつての州知事時代から国内のポリオ撲滅に強力な支援を続けています。彼のリーダーシップのもと、ナイジェリアはワクチン投与の支援として3,400万ドルの拠出を誓約し、さらに撲滅に向けた活動のスピードと量を促進するとしました。また、今年初めに行われたポリオ撲滅キャンペーンには、ヤラドゥア氏の夫人が個人的に参加しています。

インターネット速報より

会報担当者：太田稔会員、樺山修一会員

このウィークリーは再生紙を使用しています。